

トビウオ通信 (H25 第 3 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 24 年（2012 年）の島根県漁業の動向》

県の漁獲統計システムにより集計した県下漁業協同組合の漁獲統計資料（属人）などから、平成 24 年（1～12 月）の島根県漁業の動向を取りまとめました（海面漁業・漁船漁業のみ）。

全体 … 漁獲量・生産額ともに平年並み

平成 24 年の島根県（属人）の総漁獲量は 12 万トン（平年比 93%）、総生産額は 185 億円（平年比 90%）でした（表 1、図 1、2）。前年（平成 23 年）と比べると、総漁獲量で 3 万 3 千トンの減少、総生産額で 14 億 9 千万円の減少となりました。漁獲量の減少は、まき網漁業によるイワシ類の減少によるところが大きいですが、時化が多く全体的に操業日数が減少したことも影響しています。また、生産額の減少は、イワシ類の漁獲の減少に伴うものに加え、スルメイカの漁獲量の減少も一因になっています。

漁業種類別で詳しくみると本県の基幹漁業であるまき網漁業（生産額ベースで全体の 40%）、小型底びき網漁業 1 種（同 10%）、沖合底びき網漁業 2 そう曳き（同 11%）は 1 隻（船団）あたりの漁獲量、生産額ともに平年並みでした。沿岸漁業では定置網（同 11%）は平年並みでしたが、イカ釣り（同 5%）、釣り・延縄（同 5%）は平年を下回る漁況でした（詳細については後述します）。魚種別でみると（図 3）、漁獲量の上位 5 魚種はマアジ（3 万 1 千トン）、サバ類（1 万 8 千トン）、マイワシ（1 万 8 千トン）、カタクチイワシ（1 万 1 千トン）、ブリ（9 千トン）で、前年より少なかったもののマイワシの豊漁に恵まれました。これらのうちマイワシ（漁獲量の平年比 186%）は平年を上回る漁況でしたが、マアジ（同 84%）、サバ類（同 93%）、ウルメイワシ（同 84%）は平年並み、カタクチイワシ（同 77%）は平年を下回りました。

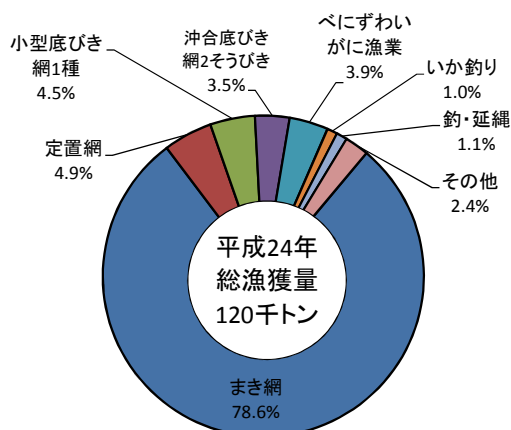


図 1 平成 24 年の島根県の総漁獲量の漁業種類別内訳

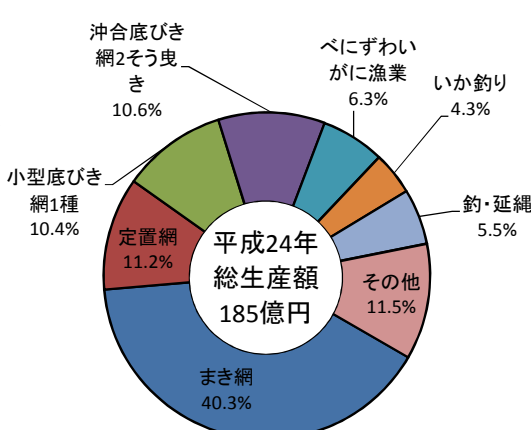


図 2 平成 24 年の島根県の総生産額の漁業種類別内訳

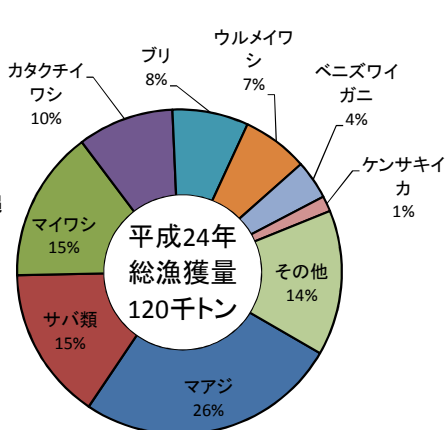


図 3 平成 24 年の島根県の総漁獲量の魚種別内訳

＜文中の語句説明＞

- ☞ 平成 24 年の漁獲量・生産額は県下全地区、全経営体を対象に集計していますが、平年比は一部経営体（実質的に県外を根拠にしているまき網船団と沖合底びき網漁船）を除いた数値で比較しています。
- ☞ 「前年」は平成 23 年の数値、「平年」は過去 5 年（平成 19 年～23 年）、沖合底びき網漁業のみ過去 10 年（平成 14 年～23 年）の平均値を指します。
- ☞ 平年との比較は、平年比 120%以上は「平年を上回る」、平年比 80～120%は「平年並み」、平年比 80%以下は「平年を下回る」としています。

まき網漁業 … 中型まき網 1 船団あたりの漁獲量・生産額はともに平年並み

本県の基幹漁業の一つである「まき網漁業」には中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。

まき網漁業全体の平成 24 年の漁獲量は 9 万 4 千トンで島根県全体の 8 割を、生産額は 74 億 6 千万円で 4 割を占めました。このうち大半を占める中型まき網の漁獲量は 8 万トン（平年比 102%）、生産額は 59 億円（同 106%）でした（図 4）。1 船団あたりの漁獲量は平年並み（同 105%）、生産額も平年並み（同 108%）でした。なお、石見地区では中型まき網の 1 船団が 1 月から 5 月中旬の間休業したため、漁獲量が前年・平年の 5 割に減少しました。

魚種別では、近年主力のマアジは、春漁・秋漁が平年を下回る漁況であった一方、1～3 月に平年を上回る漁があったため漁獲量は平年並みの 2 万 4 千トン（平年比 89%）でした。イワシ類は、マイワシが前年に続き豊漁に恵まれ、漁獲量は 1 万 6 千トン（同 194%）でしたが、カタクチイワシは 9～10 月にまとまって 1 万 1 千トン（同 87%）、ウルメイワシは 10 月にまとまって 7 千トン（同 93%）で平年並みの漁況でした。また、サバ類は 1～2 月及び主漁期となる秋以降に漁がまとまり、漁獲量は 1 万 5 千トン（同 103%）でした。全魚種とも平年並み～平年を上回り、近年としては平均的な漁況の一年となりました。

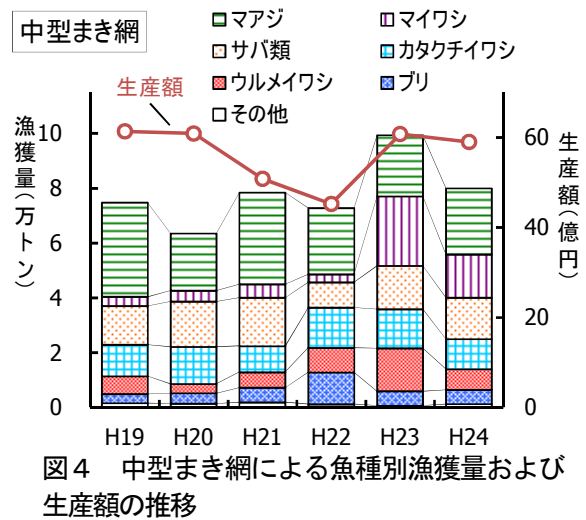


図 4 中型まき網による魚種別漁獲量および生産額の推移

沖合底びき網漁業 … 1 船団あたりの漁獲量・生産額はともに平年並み

沖合底びき網漁業（2 そう曳き）は 2 隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。平成 24 年の漁獲量は 4 千 2 百トン（平年比 74%）、生産額は 19 億 5 千万円（同 76%）でした（図 5）。本漁業の船団数は集計対象期間である平成 14 年以降で 12 船団から 7 船団に減りました。特に、平成 24 年は禁漁期が明けた 8 月以降、1 船団が減少したため、漁獲量・生産額ともに前年に比べて著しく減少しました。ただし、1 船団あたりでみると漁獲量は 524 トン（平年比 90%）、生産額は 2 億 5 千万円（同 92%）でともに平年並みでした。長期的な動向をみると、量・金額ともほぼ横ばい傾向にあるといえます（図 6）。

魚種別の動向では、アカムツ（平年比 137%）、キダイ（同 123%）は平年を上回り、アカガレイ（同 104%）、アナゴ・ハモ類（同 92%）、マフグ（同 83%）は平年並みでした。一方、ケンサキイカ（同 79%）、ソウハチ（69%）、ムシガレイ（同 55%）、アンコウ（同 52%）、スルメイカ（同 45%）は平年を下回りました。

沖合底びき網(2そう曳き)

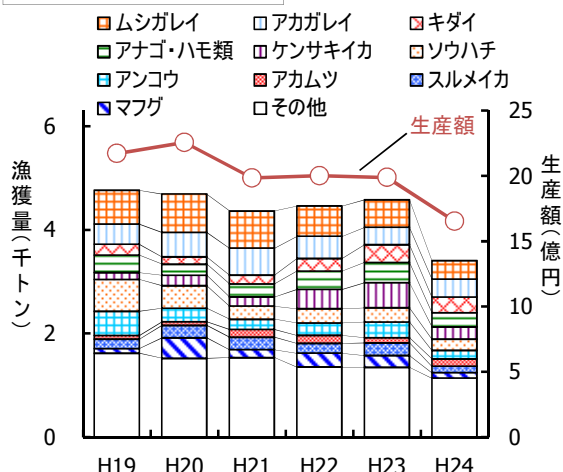


図 5 沖合底びき網漁業（2 そう曳き）による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部経営体を除く）

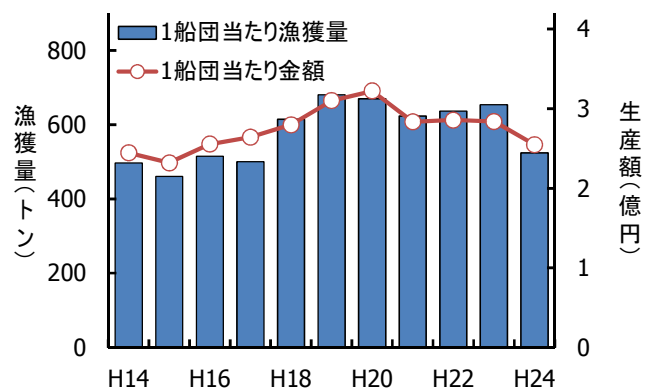


図 6 沖合底びき網（2 そう曳き）1 船団あたりの漁獲量・生産額の推移

小型底びき網漁業 1種 …… 1隻あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

小型底びき網漁業1種は、1隻の漁船で「かけまわし」と呼ばれる方法で操業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象とします。平成24年の漁獲量は5千4百トン（平年比93%）で、生産額は19億2千万円（平年比89%）でした（図7）。本漁業の操業隻数は廃業により減少傾向にあり、平成18年以降で57隻から50隻まで減りました。同じ条件で比較するため1隻あたりで見ると漁獲量は107トン（平年比101%）で、生産額は3千8百万円（同96%）で、ともに平年並みとなりました。

魚種別の動向では、ヒレグロ（同144%）、マダラ（同139%）、アナゴ・ハモ類（同144%）、アカガレイ（同203%）、アカムツ（同128%）が平年を上回り、ソウハチ（同96%）、ニギス（同84%）、キダイ（同93%）、ケンサキイカ（同104%）が平年並みでした。一方、アンコウ（同68%）、ムシガレイ（同68%）は平年を下回りました。なお、今期は前年（平成23年）同様に操業に支障をきたす大型クラゲの来遊がほとんどなく、これと一緒に来遊するイボダイ（同17%）の漁獲は少なかったようです。

小型底びき網1種

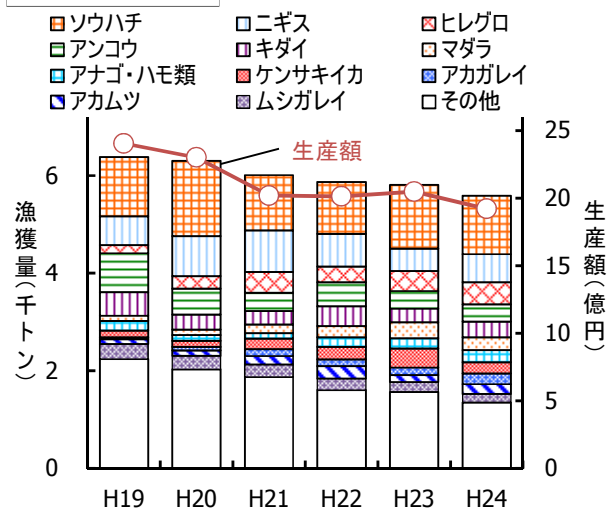


図7 小型底びき網漁業1種による魚種別漁獲量および生産額の推移

定置網漁業 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

定置網漁業（大型定置網・小型定置網・底建網）は魚類の通り道に網を張り、網に入り込んだものを漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、スルメイカなどが漁獲対象となります。平成24年の漁獲量は5千9百トン（平年比96%）、生産額は20億7千万円（同95%）で、ともに平年並みでした（図8）。また、定置網漁業の全漁獲量の約8割を占める大型定置網の1ヶ統あたりの漁獲量（同91%）、生産額（同92%）をみても、ともに平年並みでした。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区では主力のブリ（平年比121%）が平年を上回りましたが、他の漁獲割合の高いサワラ類（同113%）が平年並み、マアジ（同66%）が平年を下回ったため総漁獲量は平年並みに留まりました（同98%）。

石見地区ではブリ（同90%）、サバ類（同83%）は平年並みでしたが、主力のマアジ（同55%）が平年を大きく下回る漁況であったため、総漁獲量は平年を下回りました（同77%）。

隠岐地区では主力のスルメイカ（同17%）が平年を大きく下回る漁況でしたが、マアジ（同118%）、ブリ（同101%）が平年並み、ケンサキイカ（同215%）、シイラ（同765%）、ヒラマサ（同518%）が平年を上回ったため、総漁獲量は平年並みでした（同108%）。

定置網

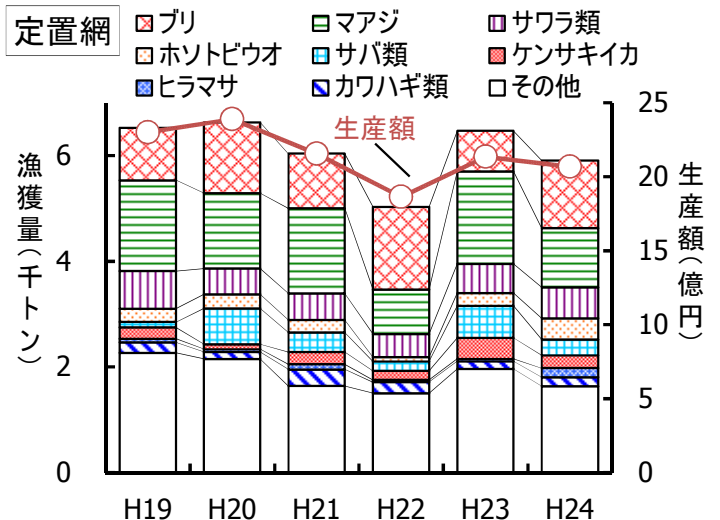


図8 定置網漁業による魚種別漁獲量および生産額の推移

釣り・延縄 …… 漁獲量は平年を下回り、生産額は平年並み

釣り・延縄は、海況や季節に応じて様々な仕掛けを駆使して魚を釣り上げる漁業です。

平成24年の漁獲量は1千3百トン（平年比77%）で平年を下回り、生産額は10億2千万円（同84%）で平年並みでした（図9）。長期的な傾向をみると、本漁業の漁獲量は比較的安定していますが、生産額は減少傾向にあります。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区では主力は何と言ってもブリですが、平成24年の漁獲量は354トンで全体量の56%を占めました。主力のブリは平年比89%と平年並みであったため総漁獲量は平年並みでした（同84%）。

石見地区ではメダイ、ブリ、サワラ類、アマダイ、クロマグロ（ヨコワ）が主な漁獲対象です。平成24年は、ブリ、クロマグロ（ヨコワ）、アマダイは平年並みでしたが、メダイ、サワラ類が不調で平年を下回る漁況となり、総漁獲量は平年を下回りました（同73%）。

隠岐地区ではメダイ、カサゴ・メバル類、ブリ、マダイ、キダイ、クロマグロ（ヨコワ）が主な漁獲対象です。平成24年は、カサゴ・メバル類、マダイは平年並みでしたが、メダイ、クロマグロ（ヨコワ）、キダイ、ブリの不調が大きく響き総漁獲量は平年を下回りました（同72%）。

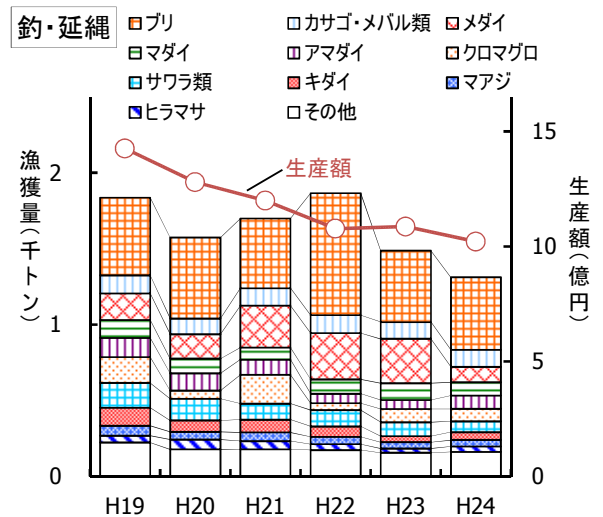


図9 釣り・延縄による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部地区を除く）

イカ釣り …… スルメイカは不調、ケンサキイカは好調

イカ釣り漁業は名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。また、漁船の総トン数により「イカ釣り5トン未満」「小型イカ釣り（5トン以上30トン未満）」「中型イカ釣り（30トン以上185トン未満）」に区別されます。

平成24年の漁獲量は1千2百トン（平年比68%）、生産額は7億9千万円（同80%）で、ともに平年を下回りました（図10）。魚種別でみると、スルメイカの漁獲量（179トン）は平年比19%で平年を大きく下回りました。近年スルメイカの回遊経路が沖合寄りとなる傾向が強く、平成20年以降、山陰沖でのスルメイカ漁の不振が続いています。

一方、近年好調な漁況が続いているケンサキイカは、秋漁を主体に漁獲量は958トンで平年並みでした（平年比107%）。ケンサキイカは平成18年以降、春～夏に獲れる大型のケンサキイカ型は減少傾向にありますが、秋に獲れる小ぶりのブドウイカ型は増加傾向にあり、スルメイカ漁の不振を穴埋めする役割となっています。

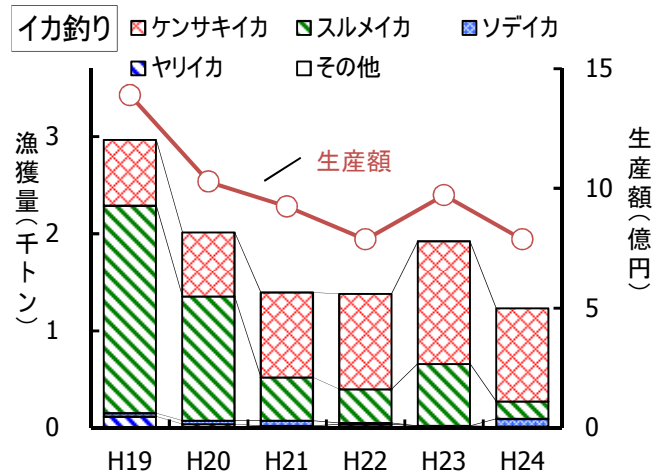


図10 イカ釣りによる魚種別漁獲量および生産額の推移（一部地区を除く）

※ 各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。（<http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/>）

表1 平成 24 年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産金額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産金額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	119,811	93%	78%	18,500	90%	93%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	3,543	54%	54%	765	84%	84%	1,238	66%	▲	254	106%	○
	隠岐	76,548	106%	81%	5,134	110%	99%	9,130	101%	○	611	105%	○
小型底びき網1種	石見	4,912	94%	96%	1,717	90%	94%	108	100%	○	38	97%	○
沖合底びき網2そう曳き	出雲・石見	4,162	74%	78%	1,953	76%	85%	524	90%	○	255	92%	○
定置網 ※※	出雲	3,668	98%	94%	1,431	99%	98%	232	95%	○	91	97%	○
	石見	886	77%	74%	262	72%	79%	140	75%	▲	41	72%	▲
	隠岐	1,356	108%	92%	374	100%	96%	280	92%	○	84	90%	○
釣り・延縄	出雲	630	84%	97%	413	85%	105%	—	—	—	—	—	—
	石見	445	73%	83%	376	85%	98%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	237	72%	78%	232	81%	75%	—	—	—	—	—	—
イカ釣り	出雲	489	48%	49%	308	56%	60%	—	—	—	—	—	—
	石見	253	78%	61%	202	90%	86%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	490	109%	95%	276	133%	125%	—	—	—	—	—	—

※ 漁獲量・生産額は県内全漁協・全経営体が対象。平年比は実質的に県外を根拠にしている一部の経営体を除いた JF しまね主要支所および海士町漁協の数値を元に算出。

平年比：過去 5 年(H19～H23 年)の平均値との比較、沖合底びき網2そう曳きのみ過去 10 年(H14～23 年) 漁模様：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

※※1ヶ統あたり漁獲量・生産金額は平成 24 年現在操業中の大型定置のみを対象に算出。